

# 災害時等における“心のケア”講座 被災者の声を聴き、共に歩む行動を



吉永 宏さん

常磐大学・大学院非常勤講師(元教授)、元日本YMCA同盟広報室長、災害救援ボランティア推進委員会講師ほか

第1回のテーマは、「災害時のボランティアリーダーシップ」。1995年の伊勢湾台風や、1995年の阪神・淡路大震災など、災害時の支援活動経験を持つ、吉永宏さんを招き開催されました。

吉永さんは、災害ボランティアを「災害に遭い、様々な困難に直面している方々の生命生活・障害にとって必要なことに積極的に関わっ

## 自ら情報を収集し、 考えて行動すること

熊本YMCAでは、災害時等の心のケアに関する考え方や心構えを学んでもらおうと、「心のケアボランティア講座」を5月から7月にかけて3回にわたり開催しました。この反響を受け、11月に再び開かれた講座では、大きな災害に限らず、身近に災害や事故などが発生した際に被災者に寄り添うための知識や実践を改めて学びました。今回は、その内容を抜粋してご紹介いたします。



多くの来場者でにぎわったYMCA祭(前進祭)

- C O N T E N T S**
- ① 心のケアボランティア講座
  - ② 世界YMCA/YWCA合同祈禱週  
熊本・大邱YMCA役員協議会  
YMCA祭り・バザー
  - ③ 水上フェスティバル  
アガベNo.69「宗教教育の大切さ」  
event report 教育・福祉講演会/日本YMCA大会
  - ④ Life 第41回 熊本市教育委員会事務局  
川上敬士さん・西方浩一さん③  
People (地域YMCA情報)  
社交ダンスクラブ/革工芸教室/ランニングクラブ

てゆくことを目的とする行動」と定義。さらに、「災害ボランティアにとって鍵となるのは、個人の意識と態度と行動です。自然災害において、マニュアルは効果的ではありません。大切なのは、確かな情報を自分で収集し、自分で考えて行動すること。被災地で必要とされる人員、仕事は日々変化します。思い込みによる行動ではなく、柔軟に対応する姿勢が大切です。被災地に集まるボランティアの目的や目標は共有されていますが、同じ考えを持つ人の集まりではありません。直面した問題に対して異なる意見が出てこそ、発見があり、最終的には合理的な解決を行うことが可能になります。また、ボランティアとは、人のために生きている」という共感を源泉とします。物理的なことを行いながら、笑顔で接し、相手の心に寄り添う気持ちを持つておくことです」と話されました。

当日は、参加者が数名ずつのグループに分かれて、ディスカッションしながら進行。「生き残ってしまったという罪悪感を持つ被災者に対してどのようケアできるのか」「災害を経験していない自分が被災者に接した際、共感することができるのか」などの意見が出されました。吉永さんは、「被災者には、あなたの気持ちを分かりたいけど、分からない」と自己開示すべき。私は、言葉の前に、相手と同じ行動をすることが一番重要ではないかと考えます。例えば、一緒に食事をするだけでもいいでしょう。しかし、頼られ

### わたしと聖句

テモテへの手紙 24章7節〜8節

わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けられるばかりです。

決められた道を

先日高校の昭和26年卒の者の、同窓会に出席した。400人卒業したが、この60年間に100人以上が亡くなった。50人近く集まったが、そ

れぞれの60年の思い出は感慨深いものもあつた。400人中、牧師伝道者になった者も4人いるが、集まった50人の中には、大企業の幹部もいるし、官庁の局長経験者もいるし、小中学校の教師、公務員、商店経営者、自由業など様々である。話はそれぞれの過去の話になった。しかし、仕事をやり抜いたという満足感を持つ者は少なかった。

パウロは自分の人生の終わりが近いことを感じ、テモテへの遺言として、この第二の手紙を書いている。そして、自分自身が「異邦人伝道」「ローマ帝国の伝道」という困難な道を、神か

ら与えられた道であることを信じてやり抜いたことを語っている。神は我々一人ひとりに、この世で歩む道を備えてくださった。その道が、時には職業や立場がどんなに困難でも、神が決めてくださった道として戦ってゆく時、素晴らしい神の報いが待っているのである。そう信じてやってゆきたい。時として何でも他人と比較して、不平不満の言葉を聞か、そんな人間にはなりたくないものである。

ひばりヶ丘福音教会  
坂本 克明



寮 慶吉さん

熊本被災者支援プロジェクト代表

第2回は、東日本大震災後に「熊本被災者支援プロジェクト(PRJ)」を立ち上げ、熊本に避難している人たちの支援を続けている寮慶吉さんによる「被災者支援ネットワークについて」。東京でビジネスコンサルタントとして活躍してきた経験を活かし、視点を少し変えたボランティアについてお話をいただきました。

寮さんは、「自らが被災地に赴くのではなく、熊本にいながらできる継続的な支援活動を計画しました。主な内容は、避難希望者に対する相談窓口を一本化し、行政やプロジェクトの提供情報をワンストップサービスで、つまり一度に対応すること。全体の計画を3月末にまとめ、東北方面の人たちへ向け情報発信しました。」

## 避難者の声を聞いて 息の長い支援活動を

てはいけません。大切なのは自立を促すこと。そのためには、相手の心に寄り添い、ゆっくりと待つことです」と締めくくられました。

相談を受けるうち、現在熊本には、被災者ではなく、福島第一原発事故を受けて自主避難をして来た人たちが多くが分かりました」と語り、被災者支援から移住支援に活動の重点を移行し、避難者が熊本で孤立しないよう、避難者同士の親睦交流会の開催を無料で開くことにした経緯を説明。

「開催にあたっては、料理の提供や手作り体験など無償で協力してもらえらる企業をぜひ探しました。快く受けていただいた企業や個人も多く、7月に初めての交流会を開きました。」

また、熊本への移住、定住がスムーズに進むよう、住宅や家財提供、就労支援などの情報提供も随時行っています。感じたのは、課題に対して一つずつ解決していく方法を提示することの大切さ。民間と行政が一体となることが重要です。今後は、避難者の自立を促す事業として、東京方面に向けた野菜販売などの戦略を立てています。これは、避難者が、東京の友人や親戚に熊本の農産物を送っていると聞いたことがきっかけです。これからも、皆さんの気持ちや意見を聞きながら、息の長い支援を続けたいと思っています。」

第3回は、心的外傷後ストレス障害(PTSD)治療のエキスパートとして、被災地に派遣された人たちのケアに当たっている、ニキハートイーホスピタル理事長の仁木啓介さんによる講座がありました。

# 若者の声を育てよう 世界YMCA/YWCA 合同祈禱週

世界のYMCAとYWCAは、毎年11月第2週目の日曜日を起点とする1週間を「合同祈禱週」とし、共に祈りを守ってきました。今年のテーマは「影響を与える声ー若者は権利と正義を呼び求める」。世界YMCA/YWCA合同祈禱週の冊子では、テモテへの手紙ー4章12節「あなたは、年が若いということ、だから軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい」を挙げ、「若者たちは未熟で、数に於いても劣るかもしれませんが、見くびられるべきではありません。意見を聞かれ、育てられ、元気づけられるべきなのです。(中略)若者たちの声は信頼でき、影響力があり、コミュニティ全体を変化させることができるのです」と述べられています。



熊本YMCAでも11月13日(日)〜11月19日(土)にかけて、各YMCAで祈りの時を持ちました。また、11月12日(土)には、中央YMCAで熊本YMCA/YWCA合同祈禱会が開かれ、共に祈り、よりよい世界実現のため協働していくことを確認しました。

# 「YMCAの使命ー次世代へのメッセージ」 第19回熊本・大邱YMCA役員協議会

11月18日(金)〜20日(日)、韓国大邱YMCAより役員10名を招いて開催された「第19回熊本・大邱YMCA役員協議会」。1日目の歓迎会で、互いの交流を深め、2日目には、「YMCAの使命ー次世代へのメッセージ」をテーマに協議会が行われました。

まず、熊本YMCA副総主事の寺岡良男さんより、東日本大震災の災害支援の状況報告を含め、震災後の日本人の意識変化を前提に、「日本社会におけるフリーター・ニートと自殺者数の多さ」という課題解決に向け、YMCAに関わる人々は働きかけを続けなくてはなりません。そのためには、ユースリーダーを育成し、会員運動の推進を強化して、将来の担い手となるリーダーシップの開発が求められます。熊本YMCAは、多くの若者に様々な活動に参加してもらう機会を提供し、委員の方々が主体的に活動に関わる運動を推進しています。困難な時代の中ではありますが、YMCAのアイデンティ



ティを明確にし、組織や建物ではなく、連なる人々を中心があることを大切にしていきたい」と発題。

続く大邱YMCA事務総長の金敏敏さんからは、「韓国は第二次世界大戦後、資本主義と経済成長を同時に成し遂げた国と評価されています。一方、OECD国家中で最も多い自殺者数は、特に若者に負担をかけ、厳しい社会となっています。しかし、近年の日韓ワールドカップの開催、キャンドルデモ、ソウル市知事選挙などを経て、若者たちは新しい主体性と創造性を見せ、社会の再建と知識文化情報の再構成を通じて自己実現をしようとしています。大邱YMCAは、青年との社会・経済を育てるインキュベーターとして、青年たちの理想実現を助ける運動体となり、目覚めている市民の組織された力を支援する活動を作る組織体でなければなりません」と発題がありました。

その後、双方より発題に対する質疑応答、さらにグループディスカッションにより、活発な討論が続きました。

# 各地でYMCA祭り・バザー開催

通むさし中央学院東部水前寺

毎年夏から秋にかけて各YMCAで祭りやバザーが開催され、会員や地域の人たちに親しまれています。それぞれボランティアの協力によって様々な出店やイベントが企画・準備され、当日は多くの来場がありました。

10月16日(日)、上通YMCAでは「チャリティ市場」と題し、毎年好評のスリランカカレーの販売やサクソフォンの演奏などが行われました。10月23日(日)のむさしYMCAチャリティバザーでは、食バザーやスティーゼントのほか鉄棒・トランポリン教室なども実施されました。

11月3日(祝)はYMCA水前寺幼稚園のバザーが開かれ、園児や保護者でにぎわいました。11月6日(日)に開かれた中央YMCA前進祭のオープニングでは、Hip-Hopクラスの子どもたちや新体操チームによるパフォーマンスが注目を集めました。11月20日(日)の東部祭では、恒例の餅つきやチヂミ、やきそば、カレーなどの食バザーが好評でした。

各地で開催された祭りやバザーの益金は、YMCAの国際協力活動や地域活動などのために役立てられます。



水前寺幼稚園バザー



前進祭(中央YMCA)



東部祭(東部YMCA)



上通YMCAチャリティ市場



むさしYMCAチャリティバザー

**アガへ** No.69 総主事 堤 弘雄

**宗教教育の大切さ**

ここ数年、教育基本法の見直しが議論される中で、その第一条には「教育の目的は人格の完成にある」とあります。その人格の完成には、本能や欲望をコントロールする「良心」を育てる必要があります。良心の声を聞きながら、自分がやるべきことと、やるべきでないことを自ら判断できる力を身につけることが人格の形成上とても大切です。

社会は子どもを映す鏡です。それは空と海の色との関係と似ています。空が曇っていると海もどんよりと灰色に見えます。現代の子どもを取り巻く大人は、子どものモデルとなっているのでしょうか。私には「良心」を育みにくい社会になっているように思えてなりません。今の社会で大切になってくるのは、子どもの良心を育むことができるモデルの存在です。まず親が一番のモデルであってほしいと思いますが、誰しも人間の心や体は弱くてもらい部分がありますので、親自身が生活の中でストレスを受けると、たちまちモデルとしての存在ではなくなってしまう。

そこで、親にも子どもにも必要なものの一つには、宗教教育があります。様々な宗教の教えが「良心」を培ううえで良き肥やしとなり得ます。キリスト教を例にとると、たとえば聖書に書いてある内容から、自分や他者が神に愛されている大切な存在であること、許せないものを許す力、相手の喜びを自分の喜びとして感じる力などを学ぶことができます。すなわち、キリストという「モデル」が私たちに与えられるのです。宗教教育によって、もたらされるもう一つの大切なことは、人間の力を超えた何か偉大なものの存在に気づき畏れを持つことです。その畏れの心が、自分がやるべきことと、やってはいけないことを見分ける、心のコントロールに大きな役割を果たすと思うのです。そのような意味で、お子さんと一緒に教会に足を運ぶことをお勧めしたいと思います。

**Photo Album**



**水上フェスティバル**

2011年11月20日(日) 会場/みなみYMCAプール

保護者ボランティアの協力を得て開催された水上フェスティバルに、150名を超える参加がありました。子どもたちは日頃の練習の成果を十分に発揮。大会では親子リレーも行われました。

**国際協力青少年育成 年末募金実施中**

熊本YMCAでは現在、国際協力・青少年育成などのための募金活動に取り組んでいます。期間は2012年1月末まで。12月初旬には、各地域で街頭募金活動も行います。

11月28日までに寄せられた募金 **1,818,285円** (目標額 720万円)



昨年の街頭募金の様子(上通)

**Event REPORT**

**発達障がい児・者支援セミナー**

開催日時/2011年10月30日(日) 14時~16時  
開催場所/中央YMCAジェーンズホール

「これからの就労支援を考える!当事者の声から」をテーマに、様々な支援団体によるパネルディスカッションを実施しました。例年、熊本YMCAで実施している職業訓練委託事業の訓練生が当事者として話題を提供し、ハローワーク熊本や熊本県高等技術訓練校、熊本県発達障害支援センター、自閉症協会など7つの団体のパネリストが、各支援機関が連携し継続的な支援ができる社会になってほしいと述べました。参加者からも様々な就労支援機関があり相談できることを知ったなどの感想が聞かれました。



職員 中島修

**第17回日本YMCA大会開催**

開催期間/2011年10月29日(土)~30日(日)  
開催場所/国際青少年センター 東山荘

日本YMCA大会で行われた4つのパネルディスカッションのうち、私は日頃、学習支援プログラムを中心に活動しているため、「社会における弱者に寄り添って」というテーマを選び参加しました。そこでは、年齢に応じた個別支援が大切なこと、人はそれぞれ長所や短所、強さと弱さを持っていることなどを様々な立場の人たちと話し合いました。その中で、弱さを見せることはありのままを認めることになり、周囲がそれを受け入れ、理解することにもつながることを学びました。



中央YMCAリーダー 久木田宏毅

- スポーツ
- 野外活動
- 語学
- 生理学習
- YMCA全体
- 中央YMCA
- 学院YMCA学院
- 高校YMCA学院高等学校くまもと教育センター
- 発達障がい支援
- キリスト教
- CD キャラクターティップメント
- 水前寺 水前寺幼稚園
- なごみ なごみファミリーYMCA
- むさし ムサシYMCA
- みなみ みなみYMCA
- 上通 上通YMCA
- 東部 東部YMCA
- 赤水 赤水幼稚園
- 尾ヶ石 尾ヶ石保育園
- 永草 永草保育園
- 国際
- リフレッシュおおむた
- ICR ICR
- フィランソロピー協会
- ミュージカルY!
- Y's ワイズメンクラブ
- ユース

# Life

第41回

「いのち」「生活」「いきがい」をテーマにしたメッセージ。



熊本市教育委員会事務局  
教職員課学校サポート係  
係長

川上敬士さん(右)  
指導主事  
西方浩一さん(左) ③

## 子どもが発信する小さなサインに気づき 大人がきちんと対応してあげましょう

子どもたちは、ケンカをした時の謝り方を知らなかったり、過剰に力を入れて殴ったりするなど、生活体験の少なさから友だちとの人間関係を上手に築けなくなっているように感じます。いじめに関するアンケートで気になるのは、いじめられていることを誰にも相談していない子どもが多い点です。相談しない理由は「親が心配する」「相談しても解決しない」「自分で解決しようと思っている」等ですが、本当は誰かに話を聞いてほしいと思っているのです。

そこで大切なのは、保護者や教師が子どもの発信する小さなサインを見逃さないことです。いじめを受けていて様子が変わらない子どもはいません。例えば、「家で学校の出来事を話さなくなった」「登校時の表情が暗くなった」など。子どもからの小さなサインに対して声をかけてあげ、会話を絶やさないようにしましょう。一番いけないのは、子どものサインに大人が対応しないことです。いじめの数は増加しているわけではありませんが、私たちが目指すのはいじめの根絶です。学校では、いじめを受けた子ども、いじめた子ども、双方の保護者を交えて話し合いを行い、解決に向けて努力しています。周囲の大人が相談に乗り、一生懸命対応してあげることが重要です。

## 国際協力青少年育成年末街頭募金

熊本YMCAでは国際協力青少年育成年末募金に取り組んでいます。毎年12月に行う街頭募金では、会員や学生など多くのボランティアとともに募金を呼びかけます。

日 程: 2011年12月4日(日)

場 所: 上通、鶴屋百貨店前、新市街、ゆめタウンはません・サンピアン・光の森、サンロードシティ熊本など

※時間は会場によって異なります。詳しくは各YMCAへお問合せください。

## 熊本バンド136周年記念行事

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じ、この教えを日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。「熊本バンド」の結盟136周年を記念して、講演会と早天祈祷会が開催されます。

### ■記念講演会

日 時: 2012年1月29日(日) 18:30~20:00

会 場: 熊本草葉町教会

テーマ: 熊本バンドのキリスト教

講 師: 水谷 誠さん(同志社大学神学部教授)

### ■早天祈祷会

日 時: 2012年1月30日(月) 6:30~7:30(雨天決行)

会 場: 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

※終了後にあたたかい豚汁があります。

お問合せ/熊本バンド記念行事実行委員会事務局 TEL 096-353-6397

## PEOPLE 熊本YMCAに関わる人たちを順番にご紹介します。

### 社交ダンスクラブ



熊本YMCA社交ダンスクラブは1965年に誕生し、中央YMCAを会場として毎週土曜日に活動されている長い歴史を持ったクラブです。今年で33回目となったチャリティーダンスパーティーは、収益を視覚に障がいのある子どもたちとの交流キャンプ支援のために寄付されています。今年10月30日(日)に行われ、約100名のダンス愛好者で会場は熱気に包まれていました。参加者からは「YMCAのダンスパーティーは踊る時間がたくさんあって楽しい」との声が聞かれました。

中央YMCA 堀部真紀

### 革工芸教室



革工芸教室は1971年の東部YMCA設立当初より活動しているクラブです。むさしYMCAでは火曜日、東部YMCAでは土曜日にそれぞれの会場で月に3回行われています。また、教室の皆さんは革工芸の活動だけでなく、4月の学生の清掃活動、11月の東部祭の時の豚汁作りや革キーホルダー作成のブースなどをボランティアとして積極的にお手伝いしていただいています。東部YMCAの40年の長い歴史の中で、このように深いお付き合いをしていただけることに心より感謝いたします。

東部YMCA 永田佳世

### ランニングクラブ

ウォーキング、ランニングと自分のペースに合わせて「健康維持・増進」をテーマに、みんなで切磋琢磨しながら、楽しく活動しています。

2月19日(日)に開催される「第1回熊本城マラソン」にランニングクラブからも10名エントリーしています。42.195km

の道程は、長い人生に通ずるものがあります。苦難を乗り越え、ゴール目指します。YMCAロゴ入りの記念Tシャツも販売予定です。



写真はスタッフ

むさしYMCA 緒方大地

## YMCA NETWORK

熊本中央YMCA	☎096-353-6391	ながみねファミリーYMCA	☎096-385-0676
YMCA学院	☎096-353-6393	熊本むさしYMCA	☎096-248-6334
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	赤水保育園	☎0967-35-0024
熊本みなみYMCA	☎096-378-9370	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
上通YMCA	☎096-352-2344	永草保育園	☎0967-32-0810
熊本東部YMCA	☎096-382-6661	リフレスおおむた	☎0944-58-7777
水前寺幼稚園	☎096-362-4141		



## キャラクター・ディベロップメント推進中

YMCA水前寺幼稚園のトイレ出入口でスリッパを揃えてくれる子どもたち。

1階では年中児の子どもたちが率先して揃えてくれます。それを見て、年少児も意識するようになりました。次にトイレを使用する友だちのことを考えて、脱ぐ時に揃える園児、誰かが乱していたら黙って揃える園児の姿に心の成長を感じ、その姿を見かける度に心が温かくなります。『○○さん、どうもありがとうございます』と心から感謝を伝える毎日です。



(矢野)

【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会  
ウェルネス活動

地球環境の保全  
ボランティア活動

生涯学習の推進  
平和な世界

■ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)

■メールマガジン登録  
[www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)

